

## シンポジウム8

放射能汚染地域に生きる ～社会医学的アプローチによるチェルノブイリ・福島の考察～

### S8-1 チェルノブイリ原発事故と福島第一原発事故の相違点

木村 真三

(獨協医科大学国際疫学研究室)

チェルノブイリは水蒸気爆発であり、原子炉の燃料棒と制御棒が設置されていた上部の蓋が爆発により吹き飛んだ。その結果、核燃料は大量に飛散しヨーロッパを汚染させた。3000km離れたパリにもホットパーティクルという核燃料と原発の建設資材が高温で溶け出した粒子が飛んだという報告がある。ところが福島は水素爆発であり、原子炉の圧力容器は破裂しなかった。しかし、メルトダウンという溶け出した燃料棒が圧力容器の底に穴をあけたために、大量の放射性ヨウ素とセシウムが飛散したが、融点温度が高い核燃料や放射性ストロンチウムの飛散は少ないものだった。ただし、これは陸上の話であり、海洋の汚染は未知数である。チェルノブイリは内陸にあり大地を汚染した。しかし、海洋の汚染は福島に比べものにならないほど小さい。

今回は、チェルノブイリ原発事故と福島第一原発事故の相違点について、説明し、それぞれの事故の特徴を紹介する。

### S8-2 事故後28年を迎えるウクライナ被災地の復興および経済状況

ヴァレーリイ・M・ムイクイチユク

(ジトーミル国立農業生態学大学)

チェルノブイリ原発事故の結果、放射性物質によって汚染された地域での安全な畜産物生産の社会的・環境学的な対応を報告する。

これまで、我々の試みは食品市場の管理に関する政府機関の指令の作成、ジトーミル州の汚染地域の社会的・経済的発展の戦略開発に活用されている。